

表参道日記 164

パーティーは非行の温床か

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

岸田政権が突然のスキャンダル発覚で揺らいでいる。政治資金パーティー収入の一部が、事実上の裏金になっていた問題である。東京地検特捜部も実態確認を進め、日々、捜査は本格化している。

そこでパーティーと聞き、中学に入学した直後の、担任教師の言葉を思い出した。先生からは、パーティーは不良が主催するもので危険なお金が動き、飲酒、喫煙、不純異性交遊などが起り得る不健全なものであり、パーティー券の購入、参加は決してしないようにと忠告された。直近に小学生であった小生にとってパーティーといえば、それぞれの自宅で行われる、お誕生日パーティー以上のイメージは浮かばず、その指導に全くピンとこなかった。

しかしながら、その後の中学、高校時代に、大人びたクラスメイトや先輩達が主催するパーティーに参加すると、それは非日常的な空間であり、実に楽しいものであった。精一杯のお洒落をして、化粧をした同年代女子と、当時流行のソウルミュージックでチークダンスを踊った時間は至極であり、まさに大人への階段であった。

その後、大学生時代はディスコテイ

クの流行全盛であり、パーティーは不健全さをすっかり失った。悪ぶる人間に限らず、誰も彼もがディスコパーティーに参加し、バブル時代前兆に都会の青春を謳歌した。

そして社会人になってからの酒席といえ、結婚披露宴(2次会はなぜかパーティーと称されていたが)、歓送迎会、暑気払い、親睦会、忘年会、新年会、賀詞交歓会、祝賀会、還暦祝い、退官式、受賞祝賀会などなど。内容はパーティーでありながら、そうは呼ばないのは、その言葉の響きが持つ隠微で軽い雰囲気日本人が、あえて払拭してきたように推する。

それに対して政治家や派閥が主催する大規模な集まりの名称は昔からパーティーである。しかしながら小生が実際に参加したことのある政治家の会を思い起こすと、心躍るパーティーはなかった。出席者は、ダサイおじさんばかりできれいに着飾った女性は見当たらず、食事の質も量もパッとせず、上質なワインや、芸能人の余興があるわけでもない演説会であった。

とはいえ、政治に金が必要であるのは当然であり、応援する政治家の姿を見て肉声を聞き、支援者がそれなりの

協力を施す集まりの意義は感じるので、パーティーと称さなければ、もつとイメージが良いように思えるが、いかがなものだろうか。

収支報告書に記載をしていれば問題のなかった慣習であろうが、パーティー券やノルマ、キックバックといった不良っぽい用語を聞くにつれ、中学時代の恩師の危惧が思い起こされる。

大人の世界のパーティーも、やはり非行の温床だったのか。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/> 名古屋甲状腺診療所(名古屋分院) <http://www.kojin-kai.jp/nagoya/> ざっぽろ甲状腺診療所(札幌分院) <http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

